

令和7年度 学校経営

北九州市立特別支援学校 北九州中央高等学園

校長 谷 義久

Ⅰ 学校経営基本方針

当校の使命は、「将来の職業的自立を目指した教育を推進することにより、軽度の知的障がいのある生徒の自己実現と社会参加・自立を促進し、社会に貢献できる人材を育成する。」ことである。

本校が生徒の企業就労を目指すのは、この基本理念実現のための手段である。しかし、本校を取り巻く社会状況は創立当初から大きく変化しているのも事実である。そこで重要なのは、本校で学んだ生徒が企業等や家庭、地域社会において、役割を果たすことを通じて、周囲の人たちから認められ、頼られ、そのことが本人にとっても喜びや生きがいになっていくということである。

本校が果たす役割は、生徒を卒業時に、その興味・関心、能力・適性等に応じた活躍できる就労先（進路）に確実につなげる（**出口保証**）とともに、各就労先で活躍できるように**個別最適な学びを実践することにより**在学中において能力の最大限の伸長を図り、さらに、卒業後においてキャリアアップできるように自ら学ぶことへの意欲と学び続ける方法を身に付けさせていくことにある。

2 学校教育目標・・・「自立・社会参加」

→教え込みでなく「対話的な学び」

「一人一人に合った就労の実現」

「個別最適な学び」が不可欠

- ① 卒業後の自立的な社会生活や職業生活をめざし、必要な態度や技能、知識などを学習する。
普通科から職業学科(R7年度)への移行を意識した学校教育の創造。
- ② 一人一人の障がいの状態や能力・適性（多様性）に応じ、卒業までの3年間の教育を見通し、生徒個々の可能性の最大限の伸長。（個別最適な学び・指導と支援のバランス）
- ③ 社会自立・職業自立に必要な基礎・基本の定着を図る。就労先を決定するだけではなく、働き続けるために、「生涯を通じて自らを高められる力」を育成し、個性が輝く教育の推進。
自立活動の充実・長所にフォーカス・生徒主体の行事・授業 トライ＆エラーの経験

3 目指す学校像 校訓『健康・誠実・努力』

目指す学校

- ① 一人一人に合った進路指導を通じて「自己実現と自立と社会参加を果たし、まちを支える人材」を育成する学校
- ② 未知の世界と出会うことで、子どもの可能性を引き出す学びの実現
「学習内容との出会い」「他者との出会い」「新しい自分との出会い」

(1) 就業を継続する力を育てる学校

- 企業・異校種・福祉・労働機関と連携し、生徒の実態や適性に応じた進路を実現する学校
- 就業につながる実践的な学習を行う学校
- 市内の施設を活用する学校

(2) 社会で生きる力を育てる学校

- 社会人として、必要な基礎的な学力・基本的な知識・必然的な知恵を習得する学校
(基礎的な知識・技能)
- 社会生活に必要な実践的な力(挨拶・返事・メモ・相談する力・言葉遣い・考える力)を育成する学校
(思考力・判断力・表現力の育成)
- 学習の場を学校にとどまらず、社会に拡大し、社会からの学びを大切にする学校
- (社会に通用する実践力)
- 思いやりの心や自立する力をはぐくむ学校
(豊かな心)
- 現代社会を生き抜く健やかな身体と働き続ける体力を育成する学校
(健やかな体)

(3) 地域に根差し、地域と共に歩む学校

- 地域や学校等と連携し、就業を目指す学校としてのセンター的機能を果たす学校
(職業科を意識した学校)

4 目指す生徒像 『明るく・優しく・^{たくま}逞しく』 本校生徒の課題・・・自己肯定感

(1) 自ら学び高める生徒 〈学びに向かう力〉

- 社会生活・職業生活に必要な知識、技能、態度を自ら進んで身に付ける生徒
- 自ら課題を見つけ、考え、判断し、行動する力を身に付ける生徒(自己選択・自己決定の力)

(2) 自分と向き合い地道に努力する生徒

- 自分の可能性を信じ、困難なことや新しいことに挑戦できる生徒 (トライ&エラーを経験)
- 働き続けるバイタリティと学力・体力を身に付ける生徒

(3) 他者とながら共に生きる生徒

- 自分を大切にでき、友達を大切にし、共に協力して問題を解決する力を身に付ける生徒
- 心やさしく思いやりのある生徒
- 周囲に相談できる生徒

5 目指す教師(教職員)像 『明るく・優しく・^{たくま}逞しい教師』 ※隠れたカリキュラム

- 組織の目標を共有できる教師
- 職位に拘らず生徒のために全力を尽くす教師。
- 自分の中に積極的に他人を取り入れ、学び続ける教師
Plant を活用し、教職員のライフステージに立った組織的・計画的な研修の充実に努め、教職員の指導力の向上を図る。(教育センター以外の研修も Plant に記入)(教師としての資質向上)
※主障がい(軽度の知的障がい)はもとより、発達障がいやメンタル系の障がい、愛着障がいなど生徒一人一人の障がい特性を踏まえた指導を充実させる。
※その他、異校種からも学び教師力を高める様々な知識・指導法や教育相談力の向上を図る
- 中央高等職員の輪を大切にできる教師
- 教師自らが、社会人としての所作や身だしなみにおいても範を示す教師集団
(生徒にとって社会人のモデルとなる教師)
- 心身の健康の保持増進に努める教師集団 時間外在校等時間上限 月45時間 年間360時間
※働き方改革に努め、業務改善の提案をお願いします (教師自らの心身の健康維持)
- プロの教師として一人一人の得意分野を活かし、鉄壁なカバーリングによる魅せる教師集団

※年齢も経験も違う職員集団の良さを生かそう

(一枚岩の組織体)

- ボトムアップ（平時）とトップダウン（有事）のハイブリッドの教師集団

※「前の学校では」、「例年通り」の体質からの脱却

- 法令を遵守し、教育公務員としての自覚を常にもち、誠意をもって職務を遂行し、生徒・保護者・地域社会から信頼されるコミュニケーション能力をもった教師集団（教育公務員としての自覚）

- ① 個人情報の漏洩防止 ② 守秘義務の徹底 ③ 体罰・暴言の禁止
④ 飲酒運転の撲滅 ⑤ ハラスメント等の防止 ⑥ 公金等適切な取り扱い

※学校予算（作業会計）の適切な管理・運用

令和6年度 作業会計（パン接遇・農耕）支出() 円 収入()円

6 本年度の重点目標

(1) 組織的対応

教職員全員が学校教育目標・目指す学校像・目指す生徒像・目指す教師像の達成を常に意識し、決して一人で抱え込むことなく組織で業務を行う

教育活動における行動指針・・・①「安全」②「子どもの成長」③「法令遵守」④「組織対応」

(2) 学習内容・方法の充実（教え込みからの脱却）

学科が変わるだけではなく学びが変わる→Society5.0の時代に必要な資質能力の育成

→社会に出たときに必要な力の育成

コミュニケーション力 協調性○ 指示待ち×

「記憶中心」→「自分で考え、判断し、表現する能力」 「教える」→「学びあう」

- ① 生徒の実態把握を基に「個別最適な学習」の実践
- ② 一人の生徒を全職員で関わる学校 担任→学年職員→進路→他学年職員（教科）→全職員
- ③ 学習規律を確立し、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、基礎学力の定着を図る。
- ④ 生徒の社会的・就業的自立を促すため、生徒の障がいの状態や特性に応じ、作業学習を中心に、社会参加・自立を目指すカリキュラム・マネジメントの改善と実践に努める
- ⑤ 教育活動における目標と指導と評価の一体化の検討、特に学習評価の検討を進める。

評価基準作成による指導と評価の一体化をすすめる

※「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」の概念を共通認識する。

【系統性・段階性のある教育活動】「守・破・離」

- 第1学年は、基礎的な学習内容の定着。中央高等学園生（社会人として）の基礎（挨拶・返事・メモ・時間）を定着させる（守）

○第2学年は、第1学年で学んだ内容を基に、生徒自らが社会の中の諸問題などに当てはめ、発展的に「活用」できるように指導する。自己選択・自己決定の力を育成するため教師の指示を減らし自ら（友人間の支え）の考えで主体的に動ける力を定着させる（破）

○第3学年は、それまでの学習の成果を応用し、今後の生活をより持続的で豊かにできるかを「探究」できるように指導する。行事（体験）を通してリーダーシップを発揮させ、与えられる人から与える人（奉仕）へ意識・行動の変換を図る（離）

各学年で段階的な指導を設定するものの、全学年で生徒が探究的に学習するよう指導の見直しを図る。全学年で「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けDXを取り入れた授業改善を進めるとともに、生徒の「自立の力」「思考力・判断力・表現力等」を育成する

- ⑦ 人権教育、道徳、性教育の指導の充実を図るため、全体計画に沿って実施する
- ⑧ 成人後、望ましい社会生活が営めるよう、職業、家庭科等の教科別指導、及び特別活動等で、主権者教育、消費者教育を推進する
- ⑨ ICT 機器を積極的に活用し、学習意欲を涵養し、学習効果を高める。

(3) 生徒相談・生徒指導の充実

生徒の健全育成を推進するため、生徒相談委員会を中心とした支援体制を活用し家庭・福祉・行政機関・医療機関・警察等の関係機関との連携を推進する。尚、関係機関や家庭等、更には企業や事業所等との連携に際しては、原則、文章や電話で済ませることなく、顔を見て膝を交えてのコミュニケーションを徹底する

- ① 教職員の生徒相談・生徒指導のスキルアップを図る
- ② 生徒指導の「さ・し・す・せ・そ」を念頭におく
「さ」……最悪の事態を想定 「し」……慎重に 「す」……素早く対応
「せ」……誠意をもって 「そ」……組織で対応
- ③ 体罰の禁止・根絶やいじめの未然防止・早期発見・早期対応に向けた研修を実施するとともに、命の大切さに関する指導の充実を図る
- ④ 適切な SNS の利用や犯罪被害に遭わないための方法について安全教室等の学習を推進する。
- ⑤ スクール臨床発達心理士（SC）、スクール・ソーシャル・ワーカー（SSW）等と連携して早期に問題の解決を図る
- ⑥ 生徒指導に関する情報を、関係者間で共有することを促進し、誰一人取り残すことなく充実した学校生活を送れるようにする

(4) 特別活動等の充実

- ① 学校生徒会を活性化し、縦割りの異学年集団の取り組みを通してリーダー育成を目指す。
- ② 委員会活動に全員が参加し、学校全体の中での役割を自覚して活動することにより、好ましい人間関係を育てるとともに、社会における自らの責務に対する自覚を促し、主権者としての意識を涵養する
- ③ 生徒会執行部・学級委員会などを中心に社会貢献活動を実施し、北九州市が進めているSDGs（持続可能な開発目標）に向けて目的意識をもって取り組んでいく
- ④ 生徒全員が「総合的な探究の時間」を中核に、自ら積極的に活動に参加することで、生徒同士や教師と生徒間の信頼関係を深めるとともに、将来の趣味や余暇の時間に活用できるスキルを身に付ける
- ⑤ 儀式的行事（入学式、始業式、終業式、卒業式、修了式）を挙行し、自らの成長、仲間の成長をたたえ合う
- ⑥ 防犯・防災や健康や安全に対する意識を高め、学校内外で適切に行動できるようにする

(5) 移転・新学科の確立

- ① 職業学科1年生の実践による検証と2,3年生のカリキュラムの策定
- ② 授業改善を進め、生徒の主体的な学びを追求する
- ③ 専門的な学びを保证するための、教科担任制の導入を検討する
- ④ 新校舎移転に当たって、教育環境の整備を進める

7 本校のGOALと戦略・戦術

GOAL・・・「自立・社会参加」 **「一人一人に合った就労の実現」**

戦術・戦略

- ① 挨拶・返事・メモの活用・体力・相談する力・言葉遣い・考える力の育成
毎日の教育活動での全職員共通実践 職員室・校長室挨拶
- ② 個別最適な学び 一人一人の生徒の実態に応じた指導と支援
教育 DX の推進 (ICTを活用した対話的な学び・個別最適な学習)
生徒の認知機能の強化・非認知能力の強化
生徒主体 生徒会活動の活性化 縦割りによるリーダー育成 トライ&エラーの経験
- ③ チーム中央としての教職員の共通理解・共通実践
進路指導部を中心に、学年・学級担任による組織対応による進路検討
教科の専門性を高め、授業改善を進める。
- ④ 実習先・進路先の開拓
職業学科のスタート～定着 のための企業連携
教育活動の積極的な情報発信 (本校の魅力向上)
地域販売・地域 (市民センター等) への清掃活動の活性化